

海外一括物流について (海外保税倉庫活用による共同物流の提案)

2019年4月17日
株式会社オンワード樫山 生産本部

海外一括物流とは

複数の仕入先の商品を各拠点の物流保税倉庫でとりまとめ
一括して各店舗に配送する仕組み

【効率化の追求】

フォワーディング → 輸出書類の一本化・積載効率の向上

国内業務の現地化 → 仕入計上・店舗別配分・SCMラベル発行

RFIDタグ導入 → 業務効率の向上

海外一括物流 弊社事例

オンワード樫山での海外一括物流の進捗状況

2017年 中国華東地区でスタート

2018年 81万点実績（カートン70万点 ハンガー11万点）

対象サプライヤー 自主生産 13工場

商社仕入 40工場（14社）

コンテナ出荷本数 160本

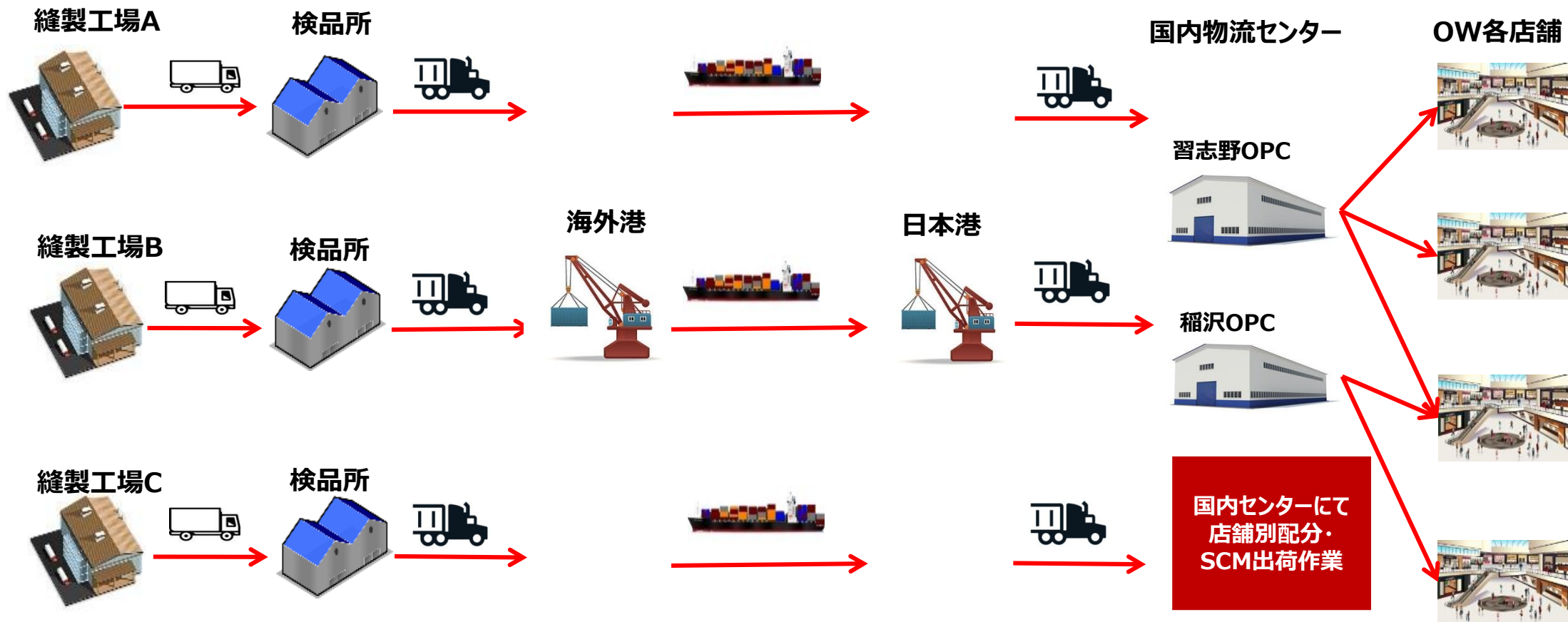
2019年 扱い数量 250万点計画

3月 ベトナム（ホーチミン）一括物流スタート

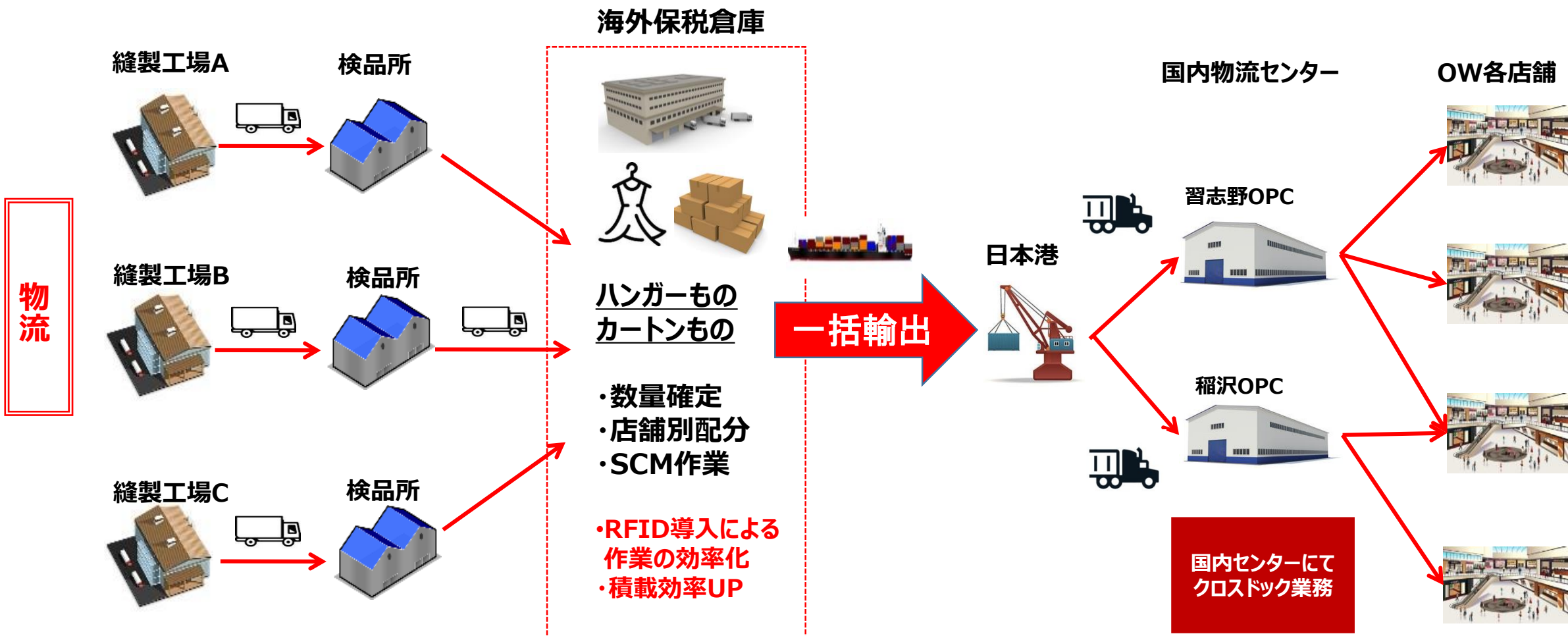
5月 中国（大連地区）一括物流スタート

通常物流フロー

物流



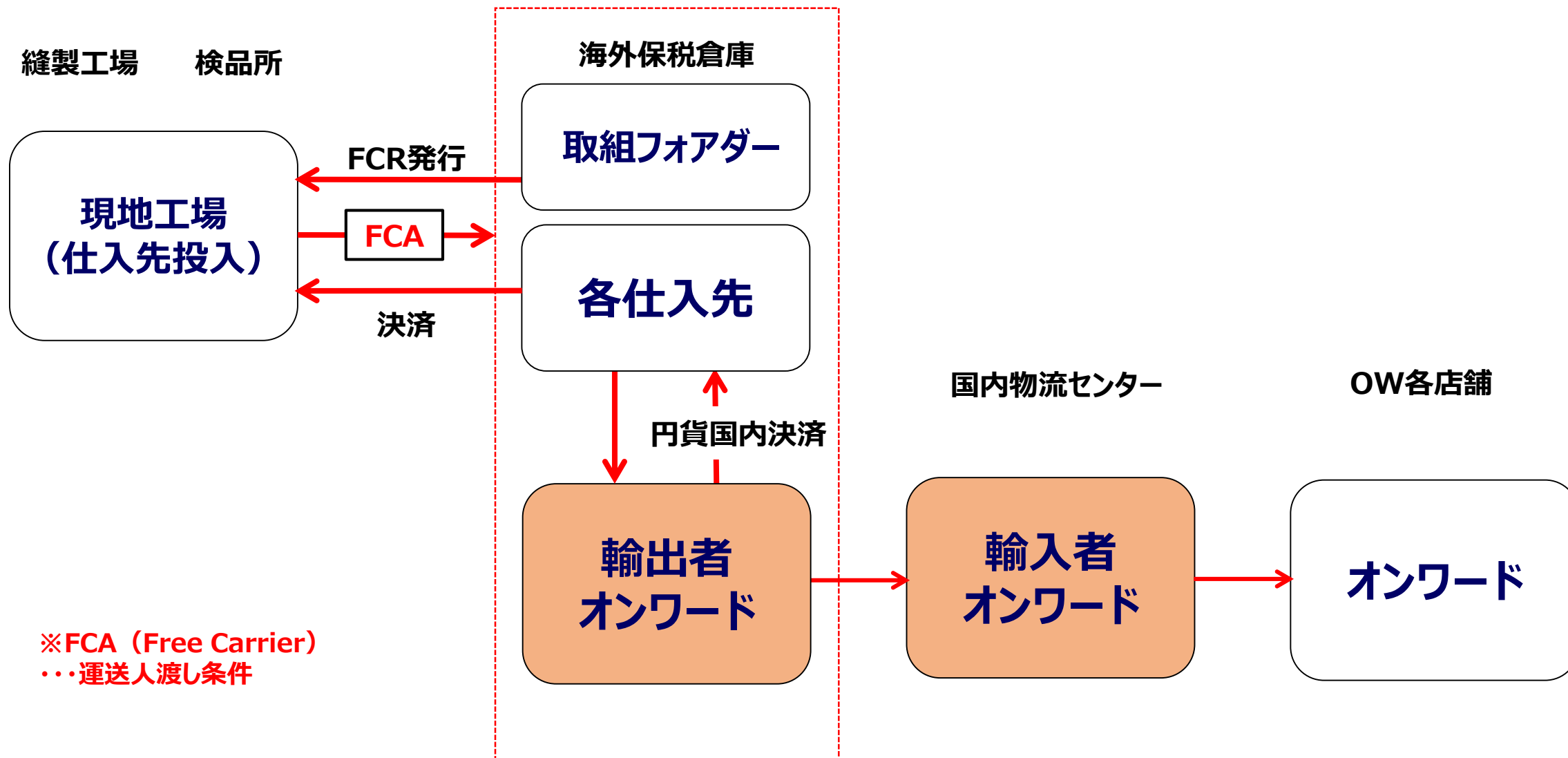
海外一括物流フロー（現行）



物流



海外一括物流（商流）



海外一括物流 各拠点の概要

- ・上海エリア（太倉邦達新保税倉庫）
- ・ベトナムエリア（佐川ベトナム保税倉庫）
- ・大連エリア（センコー保税倉庫）

上海エリア一括物流倉庫

※上海浦東空港から車で約90分

庫内面積 約6,500m² (取扱可能数：20,000点/日)

倉庫外観



RFIDゲート (ハンガー)



RFIDゲート (カートン)



倉庫内観



ベトナム一括物流倉庫

※ホーチミン空港から車で約60分

占有面積：約3,500m²（取り扱い可能数：12,000点/日）

●外観 佐川ニヨンチャック倉庫

※倉庫内保税エリアを一括倉庫として使用

●内観 防塵塗装・空調設備も完備

RFIDゲート 4基配備



●店舗別アソート・SCM作業・出区後
コンテナバンニング



大連一括物流倉庫

※大連空港から車で100分

占有面積：約1,350㎡（取り扱い可能数：6,000点/日）

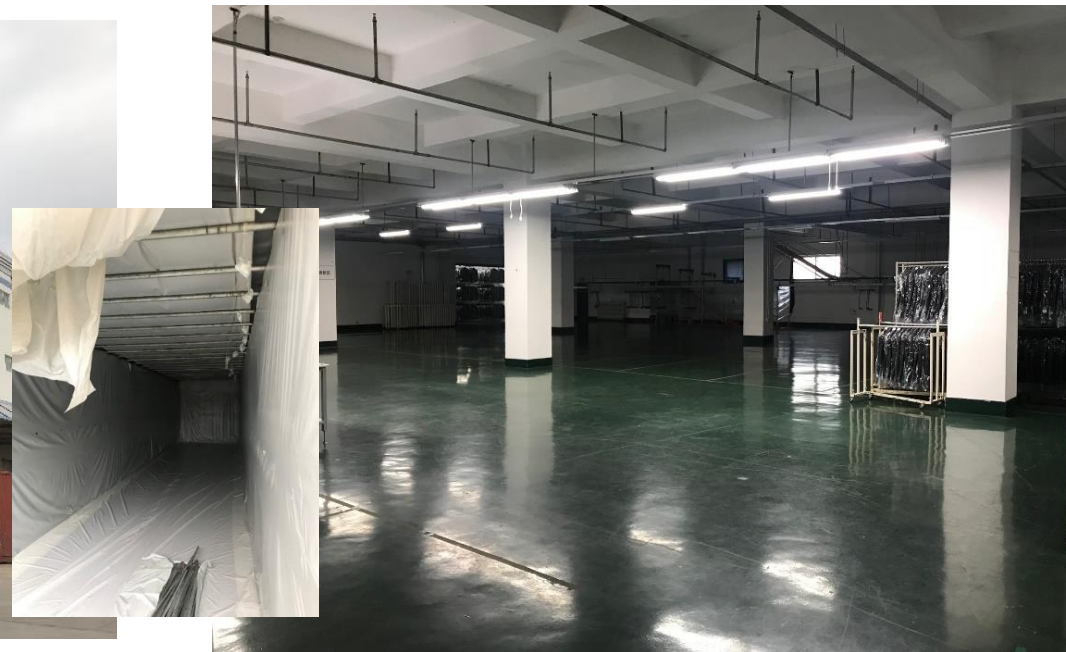
●外観（入口）



●ハンガーコンテナ 倉庫側にて10台保有



●庫内 店舗別アソート・SCM作業スペース



■ 海外一括物流 メリット

輸送コスト削減

・フォワーディング業務一括化

複数工場・サプライヤーの商品と混載することで、荷物のトレースを容易にする

人件費・作業コスト削減

・国内作業の現地化

これまで主に国内物流センターで行っていた業務を現地保税倉庫内で完結

さらに量・質ともに現地化を進めることで国内拠点の圧縮によるコストダウンにつなげる

■ 海外一括物流 運用のための準備

【契約】

- ・秘密保持契約
- ・暫8対象の扱いについて契約

【ハード】

- ・RFIDタグの導入

【ソフト】

- ・システムインターフェース
(既存システムとの連携)

【今後】

- 扱い数量の拡大 → 2020年計画 430万点**
- スマートインポート → 海外保税倉庫より直接店舗発送**
- 対象エリアの拡大 → 店舗別配分・SCMラベル発行作業**
- 他社との業務連携 → さらなる物流集約による業務効率向上**